

～四世代による酪農経営～

楠 亮さん（西予市（旧野村町））

酪農家 1977年生まれ



☆経営概況☆

酪農経営を西予市野村町で父、母と3人で行っています。

現在経産牛42頭、育成牛20頭を飼育しており、年間の搾乳量は約410tです。

飼料の自給を行うため4haで栽培（デントコーン、ソルガム、イタリアンなど）。

☆ここがポイント☆

■経営管理

経産牛一群飼いですが、個体ごとに搾乳量をみて餌の量を調整するなど個体管理を行っています。

また、購入乾草の高騰から、**飼料費の低減を図るため自給飼料生産に取り組んでいます**。しかし、その飼料の収穫調製作業は家族労働では負担が多いため、地域内の作業受託組織に依頼することで、家族の労働負担を下げています。

■牛舎の環境整備

牛舎の敷地の空いているスペースを花好きの母が中心となり、可能な限り花を植えて牧場の環境美化を進め**酪農のイメージアップを図っています**。

■堆肥場の整備

自給飼料生産の圃場の肥料として利用するため、堆肥の保管場所を確保し良質な堆肥作りに努めています。

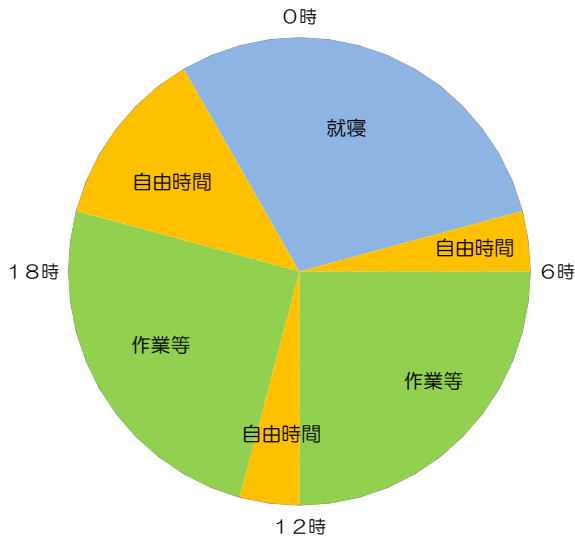


食育活動



給餌作業

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

地元のイベントに子牛を連れて行き哺乳体験をしてもらったり、地元小学校に出向き酪農の仕事の話や模型を利用した搾乳体験などの食農教育活動を行っています。

牛の角で怪我をすることがあるため、若い農業者と「蔵良角焼團」を結成し、高齢農家の除角作業を請負っています。

また、牛乳や乳製品の消費拡大に向けたPR活動等を積極的に行っています。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期・普通期】						
生き物を飼育しているため通常毎日作業がある。休みは家族と分担している						
← 作業等 →						

※酪農ヘルパー制度を利用して、家族の時間・各種イベント等の参加の時間を作っている



牛舎での作業風景



家族4世代仲良く

☆これからの夢や目指すもの☆

今後、経産牛50頭の規模に増頭を行いながら、1頭当たり年間乳量10tまで持っていきたいです。また、将来的に妻とともに“仲良く牧場経営を行っていければいいな”と考えています。

☆メッセージ☆

私には、まだ小さい子供たちがいます。その子供たちが大人になって酪農をするかは本人次第ですが、将来酪農をしたいと思えるような経営を今後も目指していきたいと思っています。

新規就農される方へ、酪農は設備投資・牛の導入の初期投資、生き物を扱うため色々な知識が必要です。心して就農の検討をして下さい。